

未来を見据えて地層処分を考える

シン・ちか通信

Vol.7

発行：原子力発電環境整備機構（NUMO）



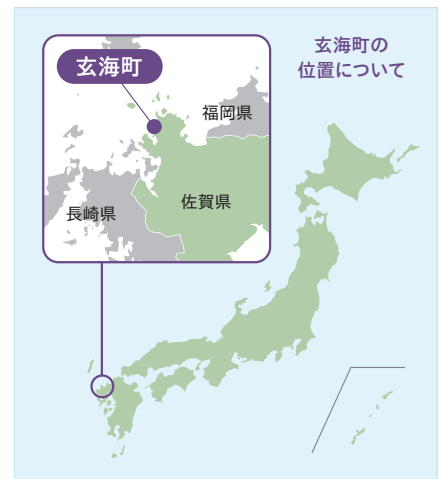
TOPICS 1 佐賀県玄海町に文献調査の申し入れを受諾いただきました！

佐賀県玄海町の脇山伸太郎町長より、5月10日、高レベル放射性廃棄物の最終処分場の選定に向けた調査の最初のステップとなる「文献調査」の受け入れを表明いただきました。文献調査を受け入れていただいた地域は北海道の寿都町と神恵内村に次いで3カ所目となります。

佐賀県玄海町においては、玄海町旅館組合、玄海町飲食業組合、玄海町防災対策協議会が文献調査の受け入れを求める請願書を町議会に提出したことを受け、4月17日に町議会の原子力対策特別委員会を開催。経済産業省資源エネルギー庁とともにNUMO専務理事の田川も出席し、地層処分事業につ

て説明しました。

その後、同特別委員会の審議などを経て、5月1日、経済産業省資源エネルギー庁から玄海町長に対して文献調査の実施を求める申し入れを行った上で、5月10日、玄海町長に文献調査の申し入れの受け入れを表明いただきました。受け入れの理由について、町長は議会の請願採択について重く受け止めていることを強調した上で、「文献調査の受け入れによってなし崩し的に最終処分地となることはないと思っている」や「交付金目的ではなく、日本のどこかに最終処分場の適地が見つかるための呼び水となったらありがたい」などと述べられました。



地層処分事業を説明するNUMO専務理事 田川

〈受諾表明までの主な経緯〉

4月4日	文献調査の受け入れを求める請願書を町議会が正式受理
4月15日	玄海町議会が開会
4月17日	原子力対策特別委員会にて請願書について審議
4月25日	原子力対策特別委員会にて請願書について審議および採択
4月26日	町議会本会議で文献調査の受け入れを求める請願書を賛成多数で採択（賛成6名、反対3名）
5月1日	経済産業大臣から玄海町長に対して文献調査の実施を求める申し入れ
5月7日	玄海町長が経済産業大臣と面談
5月10日	町議会での全員協議会を経て玄海町長が文献調査の申し入れの受け入れを表明



NUMO理事長
近藤 駿介

5月10日、佐賀県玄海町の脇山伸太郎町長が、文献調査の実施を受け入れると表明されました。地域の皆さまには特定放射性廃棄物の最終処分と文献調査にご関心をお持ちいただき、町議会において議論を重ねていただいた上で、脇山町長より前向きなご判断をいただいたことに、心から敬意と感謝の意を表します。特定放射性廃棄物の最終処分は、日本社会全体で必ず解決しなければならない重要な課題です。NUMO

は、最終処分という課題に取り組む上で、全国のできるだけ多くの地域に文献調査を受け入れていただきたいと思います。玄海町で文献調査にご協力いただけることは、大変ありがたいことです。

NUMOは、最終処分や文献調査に関する地域のごさまのご関心やご疑問、ご不安にお応えし、議論を深めていただけるよう、玄海町に全面的に協力し、情報提供等を丁寧に進めてまいります。

TOPICS
2

国の審議会で 文献調査報告書(案)の内容を審議中

NUMOは、2020年11月より北海道寿都町・神恵内村において文献調査を続けてきましたが、このほど、国が取りまとめた「文献調査段階の評価の考え方(以下、「考え方」)」に基づ

く評価結果や概要調査地区の候補を記した文献調査報告書(案)(以下、報告書案)を取りまとめました。

報告書案は寿都町、神恵内村それぞれ600

から700ページ程度にまとめたものであり、火山や活断層等に関する論文などを分析し、寿都町で延べ851件、神恵内村で延べ719件の資料を引用文献としています。

報告書案については、2月13日に国の審議会である地層処分技術ワーキンググループ※(以下、「地層処分技術WG」)に提出して以降、地層処分技術WGや特定放射性廃棄物小委員会において評価のプロセスなどを審議しています(5月末までの審議概要は下表の通り)。なお、文献調査は次の段階となる概要調査地区の候補を選定するための調査であり、文献調査の結果だけで最終処分地が決定されるわけではありません。

※地層処分技術ワーキンググループ
文献調査の取りまとめや、調査の段階に応じて新たに生ずる論点のうち特に技術的・専門的な事項について審議するワーキンググループ

〈5月末までの報告書案の審議概要〉

	国の審議会	「考え方」に基づく評価・検討のプロセスの審議対象等
2月13日	第1回地層処分技術WG	報告書案の提出、全体構成の紹介、項目間の共通事項の審議
3月29日	第2回地層処分技術WG	侵食・第四紀の未固結堆積物・鉱物資源・地熱資源の基準に基づく評価
4月30日	第3回特定放射性廃棄物小委員会	経済社会的観点からの検討、全体構成の紹介
5月2日	第3回地層処分技術WG	断層等・マグマの貫入と噴出の基準に基づく評価、技術的観点からの検討
5月24日	第4回地層処分技術WG	報告書案に対する評価案の審議

もっと詳しく!
地層処分技術ワーキンググループ



TOPICS
3

2023年度 エネルギー環境教育 「全国研修会」を開催しました!

NUMOでは、2013年度から全国の教育関係者を対象に、自発的な授業研究(授業実践、学習指導案作成、教材開発等)の支援をしています。この一環として、授業実践の事例や成果を共有するとともに、先生同士の交流を深めていただくため、2014年度から「全国研修会」を開催しています。

2023年度は3月3日に開催し、対面とオンラインを合わせ、全国の小・中・高等学校、高等専門学校、大学の先生など約180名にご参加いただきました。金田武司氏(株式会社ユニバーサルエネルギー研究所 代表取締役社長)による基調講演「日本のエネルギー!そ

の特殊性を歴史から考える」で幕を開け、全国の先生方による12件の実践発表と意見交換会を行いました。また、初の試みとなるブース形式の交流セッションを行い、授業実践例や開発した教材の紹介など11組の団体や先生方に出展いただきました。参加者からは「対話を通して、地域を越えた連携の可能性が広がった」などの声が聞かれました。

高レベル放射性廃棄物の最終処分は、長期にわたる事業です。NUMOでは、次世代層にも自分事として考えていただけるよう、引き続き先生方のご協力をいただきながら取り組んでまいります。



上:コーディネーターによるセッションの講評
下:口頭による実践発表

もっと詳しく!
2023年度 全国研修会レポート



左上・左下:ブース形式の交流セッション
右:講演する金田氏

「教育支援・出前授業」ページをリニューアル!!

- 初めてご覧になる方にもわかりやすいように情報を分類・整理
- NUMOの出前授業をパッケージ案で掲載

今後も、先生方の授業実践例や教材の紹介など、拡充を予定しています。ぜひご活用ください。

もっと詳しく!
教育支援・出前授業



TOPICS
4

日本人初! NUMO理事が功労賞を受賞

放射性廃棄物管理国際会議2024

3月10日～14日、アメリカ合衆国アリゾナ州フェニックスで開催された放射性廃棄物管理国際会議(Waste Management 2024)



受賞式で謝辞を述べる理事 梅木

において、理事の梅木が、ウェンデル D. ウェアート生涯功労賞(Wendell D. Weart Lifetime Achievement Award)を受賞しました。これは、高レベル放射性廃棄物の最終処分の研究開発や事業の推進に長年携わり、国際的に多大な貢献を行ったことが評価されたものです。

同賞はWaste Management Symposia(WMS)^{*}とその支援団体が設立した賞の一つで、2001年からこれまでに計23名が受賞していますが、日本人としての受賞は今回が初めてとなります。

^{*}Waste Management Symposia(WMS)
世界の放射性廃棄物管理に関する教育と情報交換の場を提供することを目的とする非営利団体



NUMO理事
梅木 博之

この度は、長年携わってきた放射性廃棄物処分分野での貢献が認められ、日本人として初めて、「Wendell D. Weart Lifetime Achievement Award」を受賞できたことを大変光栄に思います。地層処分は学際的な技術であり、この受賞は、国内外の多くの先達、共に取り組んでいただいた方々のご指導・ご鞭撻のたまものです。この機会に改めてお礼を申し上げるとともに、今後もこれまでの経験を生かし、微力ながら地層処分技術の信頼性向上、次世代への技術継承に努めていきたいと考えています。

現場最前線

FRONTLINE

地域交流部の職員が
取り組みを紹介



地域交流部
地域連携グループ
白井 崇裕

全国の皆さま一人ひとりとの対話を大切に 高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する対話型全国説明会

NUMOでは、高レベル放射性廃棄物の最終処分について全国の皆さまに理解を深めていただくため、2017年から資源エネルギー庁との共催で説明会を開催しています。私は説明会の運営や当日のファシリテーターを担当し、この2年間で約30カ所にお伺いしました。

説明会では、地層処分の概要をご説明した後、少人数のグループごとにNUMOと資源エネルギー庁の職員が参加者と対話をしながら質問にお答えします。少人数形式にすることで、参加者一人ひとりの声に寄り添いながら、一つひとつの疑問に丁寧に答えさせていただきます。「高レベル放射性廃棄物って何?」という参加者も多いので、まずは知っていただき理解を深めていただくことが重要だと考えて

います。参加者から「聞きたいことに答えてもらえて勉強になった」という声をいただくこともあり、やりがいを感じています。

一方、説明会の中では「なぜここで開催するのか」「もっと大勢の参加者が集まる都市で開催すべきでは」などのご意見をいただくこともあります。説明会の目的は“全国の皆さまにより深く知っていただくこと”なので、都市の大きさに関わらずこれまで延べ190カ所以上で開催し、延べ4,800名以上の方にご参加いただいています。

今後も、「参加して良かった」と思っていただける説明会となるように取り組んでまいります。

もっと詳しく!

説明会の詳細・お申し込みはこちら



説明会で参加者からの質問に答えている様子

説明会 開催予定

- 6月20日(木) 群馬県太田市 太田商工会議所
- 6月27日(木) 滋賀県彦根市 彦根商工会議所
- 7月10日(水) 高知県宿毛市 宿毛文教センター(中央公民館)
- 7月24日(水) 長野県上田市 上田市勤労者福祉センター

TOPICS 5

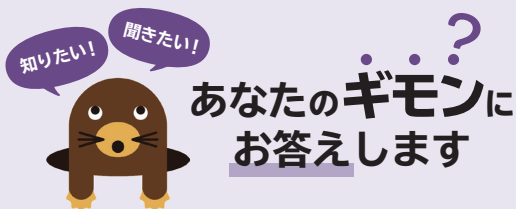
地層処分の実現に向けて一緒に取り組む 新たな仲間を紹介します



2024年4月、NUMOに新入職員が9名入構しました。

新たな仲間は「地層処分は大きな課題であり、貢献できることにやりがいがある（技術部・永井翔）」、「技術部内に尊敬できる先輩や上司が沢山いて、頑張りたい気持ちになる（技術部・村上義揮）」、「NUMOに実際に入構してみて、地層処分事業に対する団結力に驚きワクワクしている（広報部・川中美侑）」、「対話活動の中で、正しく伝える技術を勉強し、コミュニケーションのプロになりたい（地域交流部・吉村龍太郎）」と意気込んでいます。

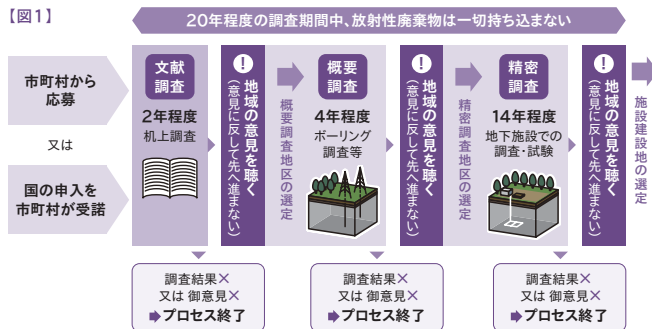
熱い想いを持つ新入職員ともども、100年以上にわたる地層処分事業の実現に向けて挑戦してまいりますので、今後ともよろしくお願いたします。



Q 文献調査を受け入れた場合、そのまま処分地になってしまうのですか？

A 「文献調査の受け入れ＝地層処分地の決定」ではありません。文献調査は全国規模の文献・データに加え、地域固有の文献・データを机上で調査分析して情報提供することにより、事業について議論を深めていただく、いわば対話活動の一環です。

また、市町村が概要調査以降に進もうとする場合は、都道府県知事と市町村長のご意見を十分に尊重することとしており、そのご意見に反して先に進むことはありません(図1参照)。より良い地質条件等を選んで絞り込むため、**できるだけ多くの地域に調査を受け入れていただくことを目指しています**。海外も同様に複数の地域から選定しています(図2参照)。



	文献調査相当	概要・精密調査相当	処分地選定
スウェーデン	8件	2件	1件
フランス	精密調査相当への関心表明 30件	文献・概要調査相当 10件	精密調査相当 1件
カナダ	関心表明 22件	文献調査相当 11件	概要調査相当 2件

